

台湾・橋仔頭糖廠芸術村 アーティスト・イン・レジデンスに参加して

10月から11月にかけて台湾・橋仔頭糖廠芸術村で行われたアーティスト・イン・レジデンスに、神戸から若いアーティスト多田陽一さんが参加しました。今回は、多田さんのほかに武蔵野美術大学4回生の山崎百香さん、イタリアから2名、台湾から2名のアーティストが参加しました。1カ月滞在して帰国した多田さんから、創作の様子や作品などを紹介してもらい、アーティスト・イン・レジデンス、アートとまちづくりあるいは国際交流などについて、気楽に話し合う場を持ちたいと思います。

皆さんのお越しをお待ちしています。

垂水英司（被災地市民交流会）

宮崎みよし（NPO 法人リ・フォーブ代表）

日時 2012年 12月7日(金) 午後3:00～5:00

場所 プラネット EarthH (モトコー2中ほど山側)

神戸市中央区元町高架通3番172号 IPphone 050-3716-3540

報告者 多田陽一

自己紹介 僕はスケートボードに熱中していたアウトドア人間だった。ある時何気なくスケボーに絵を描いてみた。するとその絵の方から僕に生き方を少し変えるよう誘ってくれた。次第に、筆を動かす自分の感情が自然に絵の表現に移っていく感覚を味わうようになった。

2011年芸術と文化の祭典『神戸ビエンナーレ2011』で、どこかから来たアーティストが壁画を描いているのを見た。『神戸ビエンナーレ2011』のアートディレクターの一人宮崎みよし先生を訪ね、「僕にもやらせてほしい」と申し出た。この経験は、僕を一步育ててくれる契機となった。

僕は今、高架下の商店街に友人と雑貨店を経営している。寂れていく高架下の商店街に二つの壁画を完成させ、アートを取り入れて活性化するため活動を手伝っている。これからも自分の居場所にこだわっていきたい。



橋仔頭糖廠芸術村と新台湾壁画隊

橋仔頭糖廠は、高雄市にある1901年日本人が建設した製糖工場で、製糖が衰退してからは、当地は火災に遭うなど次第に放置されていた。1994年まちづくりの風潮が高まる中、地域文化に関心を持つ人々によって、ここを文化的空間にしようとする動きがあり、2001年橋仔頭糖廠芸術村が開設された。元の製糖工場の迎賓館を活用した核施設「白屋」や、創作空間としての倉庫、芸術家の滞在施設などが点在しており、さまざまな創作活動や展示などがなされている。

芸術村は、2001年行政院文化建設委員会（現在の文化部）が最初の駐村芸術家（アーティストインレジデンス）のモデル実施を行った7か所の一つでもある。

また、芸術村の活動の一つとして2010年「新台湾壁画隊」が組織され、これまで台湾各地で移動創作活動を行ってきた。そして、今年夏には、東北の被災地石巻で「石巻アート 台湾壁画プロジェクト〈春の約束〉」のイベントを行い、来年春本イベントを実施する。